

2020年9月3日
株式会社日本政策金融公庫

コロナ禍 農業景況DIは大幅に悪化 ～ 担い手農業者の設備投資マインドは高い水準を維持 ～

< 農業景況調査（令和2年7月調査） >

日本政策金融公庫（略称：日本公庫）農林水産事業は、融資先の担い手農業者を対象に「農業景況調査（令和2年7月調査）」を実施しました。

今回調査では定例の景況調査のほか、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響について調査いたしました。

調査結果のポイントは以下のとおりです。

< 農業景況 >

- 令和2年上半期の農業景況DI（▲25.9）は、前年実績から大幅に悪化（31.9ポイント低下）し、マイナス値となりました。
- 令和2年通年の景況DIの見通し（▲42.0）は、令和2年上半期実績からさらに16.1ポイント低下し、大幅なマイナス値が継続する見込みとなりました。
- 雇用状況DI（▲29.2）からは引き続き、労働力不足の状況がうかがえます。
- 設備投資予定ありの比率は57.3%と過去10年で最高値となり、担い手農業者の設備投資に対する積極的な姿勢がうかがえます。

< 新型コロナウイルスの感染拡大による影響 >

- 新型コロナウイルス感染症の拡大によって「売上高にマイナスの影響がある」とした先は49.5%と約半数となりました。
- 業種別では、肉用牛、茶、施設花きを中心にマイナスの影響が目立つ中、養豚では「プラスの影響がある」が33.2%と他業種に比べ高くなりました。
- 新型コロナウイルス感染症拡大による具体的な影響の内容は、「単価・相場下落」が最も多く、肉用牛、茶、施設花き、採卵鶏で特に高い回答割合となりました。
- 経営再建・発展に向けた課題は「コロナ支援関連の情報収集」が最多となりました。

■詳細は、添付のレポートをご参照ください。

農業景況調査(令和2年7月)

～農業の景況及び新型コロナウイルス感染症拡大 による影響について～

～目次～

I.農業の景況について	P 3～7
II.新型コロナウイルス感染症拡大による影響		
II-1 売上高への影響	P 8～9
II-2 具体的な影響の内容	P10～12
III.新型コロナ下における課題	P13～15

○調査概要

- 調査時期: 令和2年7月
- 調査方法: 往復はがきによる郵送アンケート調査
- 調査対象: スーパーL資金又は農業改良資金のご融資先のうち18,219先
- 有効回答数: 5,464先(回収率30.0%)

(内訳)

稲作(北海道):514、稲作(都府県):1,361、畑作:442、露地野菜:466
施設野菜:475、茶:134、果樹:301、施設花き:166、きのこ:76、
酪農(北海道):183、酪農(都府県):210、肉用牛:400、養豚:220、
採卵鶏:114、ブロイラー:73、その他:329

<お問い合わせ先>

日本政策金融公庫 農林水産事業本部 情報企画部(担当:高田、米山)TEL:03-3270-5585
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-4 大手町フィナンシャルシティ ノースタワー

I. 農業の景況について(景況DI、収支DI)

- ・令和2年上半期の農業景況DI(▲25.9)は前年実績(6.0)から31.9ポイント低下し、大幅な悪化となった。
- ・令和2年通年の見通しは更に16.1ポイント悪化し、▲42.0とマイナス値が継続する見通しとなった。
- ・収支DIは養豚以外の全業種でマイナス値となった。特に、茶(▲85.0)と肉用牛(▲81.7)、施設花き(▲67.9)は大幅なマイナス値となった。養豚は前年から大きく改善(▲7.8→31.6)し、プラス値に転換した。

1. 景況DI

	平成21年 実績	22年 実績	23年 実績	24年 実績	25年 実績	26年 実績	27年 実績	28年 実績	29年 実績	30年 実績	令和元年 実績	2年 上半期実績	2年 通年見通し
農業全体	▲17.4	▲25.2	▲7.9	13.2	▲1.4	▲33.7	16.8	20.0	21.2	▲11.1	6.0	▲25.9	▲42.0
稲作(北海道)	▲29.0	▲36.9	43.5	43.9	▲4.2	▲67.2	20.1	▲4.9	39.7	▲51.8	26.5	▲15.0	▲54.7
稲作(都府県)	▲11.7	▲55.5	13.1	36.2	▲10.2	▲71.0	▲3.8	23.6	10.3	▲10.7	11.4	▲15.5	▲42.0
畑作	▲14.5	▲32.2	▲19.1	1.6	▲27.6	▲5.3	35.2	▲17.6	34.8	▲22.7	31.6	▲17.0	▲48.9
露地野菜	▲15.4	▲2.0	▲14.0	6.7	15.1	▲15.7	14.3	14.7	7.5	▲3.4	▲9.3	▲37.3	▲45.3
施設野菜	▲23.8	▲6.9	▲15.7	19.9	15.6	▲8.4	20.3	26.3	15.0	▲1.4	▲22.4	▲24.8	▲26.3
茶	▲54.2	▲32.1	▲47.3	▲12.8	▲44.8	▲55.0	▲53.1	11.1	26.5	▲14.5	▲53.1	▲84.4	▲79.6
果樹	▲34.1	▲0.9	▲11.7	16.0	6.3	▲12.7	11.5	25.6	21.8	20.6	7.5	▲23.5	▲51.2
施設花き	▲29.7	▲20.5	▲38.8	▲8.0	▲2.8	▲34.4	▲5.9	11.8	▲10.6	▲13.7	▲20.2	▲64.2	▲69.6
きのこ	▲20.4	▲51.8	▲47.1	▲19.6	4.7	▲20.7	15.2	1.1	▲2.5	▲21.0	▲23.2	▲21.1	▲10.6
酪農(北海道)	13.2	▲37.8	▲26.9	▲2.2	▲9.4	▲4.1	55.9	57.6	44.8	25.0	30.3	▲5.5	▲21.7
酪農(都府県)	21.8	0.0	▲24.2	0.0	▲23.8	▲30.9	29.3	52.2	12.6	2.5	8.4	▲17.7	▲16.8
肉用牛	▲20.7	▲7.4	▲47.4	8.3	20.5	▲1.2	48.5	50.3	17.5	4.7	▲0.2	▲78.1	▲78.6
養豚	▲52.4	15.5	▲6.2	▲38.1	43.6	67.5	48.8	26.2	59.4	▲27.2	▲4.1	27.3	35.8
採卵鶏	▲18.1	14.1	8.4	▲40.6	43.9	28.6	71.0	40.8	32.7	▲61.2	▲38.9	▲37.7	▲49.1
ブロイラー	▲20.0	▲6.3	▲1.3	▲22.4	10.4	51.9	27.4	55.3	15.9	14.7	▲8.3	▲30.1	

※景況DIは農業経営が「良くなった・良くなる」とする構成比から「悪くなった・悪くなる」とする構成比を差し引いたもの

2. 収支DI

	平成21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年 上半期
農業全体	▲21.9	▲26.3	▲7.2	12.5	▲7.0	▲39.7	14.2	16.7	14.7	▲20.1	▲1.5	▲31.6
稲作(北海道)	▲45.7	▲40.8	54.7	44.7	▲14.4	▲72.4	21.3	▲13.7	43.0	▲63.3	17.9	▲28.3
稲作(都府県)	▲16.9	▲61.1	14.0	37.8	▲22.0	▲76.7	▲6.5	23.8	2.2	▲18.8	4.5	▲20.3
畑作	▲16.7	▲32.3	▲21.4	▲1.4	▲35.8	▲13.8	33.9	▲24.7	28.1	▲27.5	29.0	▲18.7
露地野菜	▲13.9	0.5	▲18.1	0.7	8.9	▲23.6	5.7	13.1	▲0.9	▲14.8	▲18.4	▲35.5
施設野菜	▲25.2	▲9.5	▲18.2	16.7	9.3	▲19.5	15.3	20.3	5.6	▲11.8	▲27.2	▲29.5
茶	▲76.4	▲26.3	▲44.9	▲11.9	▲43.8	▲59.0	▲52.4	8.1	25.8	▲16.1	▲54.0	▲85.0
果樹	▲45.7	1.4	▲12.2	14.2	0.9	▲20.3	6.3	19.3	12.0	7.4	▲4.9	▲36.2
施設花き	▲36.5	▲20.2	▲38.8	▲9.7	▲8.5	▲39.2	▲8.1	9.1	▲24.6	▲22.0	▲22.3	▲67.9
きのこ	▲34.4	▲50.0	▲46.5	▲13.7	7.0	▲17.1	11.4	▲1.0	▲3.8	▲24.7	▲30.5	▲9.7
酪農(北海道)	33.2	▲44.0	▲25.9	▲3.4	▲10.5	▲12.6	55.5	57.0	36.8	7.4	17.6	▲11.3
酪農(都府県)	39.5	▲0.8	▲27.7	▲2.6	▲25.4	▲34.3	25.4	48.4	1.7	▲3.3	▲3.6	▲23.9
肉用牛	▲31.4	▲5.7	▲49.9	9.9	20.2	▲7.6	50.8	48.6	7.0	▲4.1	▲7.3	▲81.7
養豚	▲70.4	21.3	▲4.2	▲38.1	44.9	69.9	50.2	19.1	57.9	▲34.9	▲7.8	31.6
採卵鶏	▲28.2	29.5	14.3	▲45.6	56.7	31.3	63.0	44.8	31.9	▲62.8	▲46.0	▲32.1
ブロイラー		▲5.5	▲10.9	1.3	▲22.4	6.0	42.3	29.1	55.3	4.3	5.4	▲8.5

※収支DIは収支実績が「良くなった」とする構成比から「悪くなった」とする構成比を差し引いたもの

I. 農業の景況について(資金繰りDI、販売単価DI)

- ・資金繰りDIはほぼ全業種で悪化。特に茶(▲65.6)と肉用牛(▲57.4)、施設花き(▲49.4)が厳しい状況。養豚は大きく改善(2.3→19.5)し、ブロイラーは低下するもプラス値を維持(17.4→4.1)。
- ・販売単価DIは肉用牛(▲21.5→▲91.1)、酪農(北海道:33.0→▲27.8、都府県:34.2→▲32.7)で大きく低下。

3. 資金繰りDI

	平成21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年 上半期
農業全体	▲14.6	▲14.7	▲3.8	9.8	▲0.9	▲29.2	7.6	15.5	15.5	▲4.7	0.4	▲20.1
稲作(北海道)	▲20.2	▲18.2	34.5	31.8	▲0.7	▲52.4	8.2	▲2.5	23.8	▲30.4	7.9	▲13.0
稲作(都府県)	▲10.2	▲38.1	10.0	29.2	▲6.7	▲59.2	▲10.7	13.5	7.3	▲5.9	4.9	▲13.5
畑作	▲5.2	▲12.0	▲9.7	2.4	▲17.0	▲10.4	19.9	▲3.3	23.3	▲5.3	14.7	▲11.2
露地野菜	▲12.4	2.0	▲13.2	2.7	7.2	▲14.2	2.3	14.2	2.7	▲6.4	▲13.5	▲28.4
施設野菜	▲25.2	▲4.2	▲6.3	12.7	8.1	▲10.6	16.0	19.8	11.5	0.8	▲19.3	▲23.0
茶	▲57.5	▲28.9	▲33.0	▲16.4	▲32.5	▲43.7	▲41.3	4.3	20.2	▲8.0	▲40.5	▲65.6
果樹	▲32.4	▲6.6	▲8.7	7.2	1.4	▲14.8	1.4	14.7	8.6	8.9	2.0	▲20.6
施設花き	▲31.2	▲19.2	▲27.4	▲14.7	▲9.8	▲34.4	▲6.8	7.3	▲5.9	▲6.9	▲15.2	▲49.4
きのこ	▲22.3	▲37.3	▲39.6	▲23.5	0.0	▲29.3	10.1	1.0	7.5	▲24.7	▲29.0	▲18.4
酪農(北海道)	20.1	▲18.9	▲15.1	▲3.1	▲5.0	▲6.3	39.2	45.7	36.3	21.1	24.9	▲1.1
酪農(都府県)	28.3	3.5	▲17.8	1.8	▲14.4	▲26.2	26.5	42.1	16.4	5.4	1.6	▲10.5
肉用牛	▲19.5	▲2.8	▲26.7	8.1	9.7	▲6.1	27.8	34.6	16.9	8.7	0.7	▲57.4
養豚	▲61.1	16.7	▲4.2	▲26.8	37.1	59.3	45.0	32.4	55.6	▲7.1	2.3	19.5
採卵鶏	▲16.9	18.1	15.6	▲24.4	39.0	26.8	56.0	44.8	31.1	▲30.2	▲28.6	▲36.8
ブロイラー		3.6	▲4.7	18.4	▲16.4	3.0	38.5	29.1	50.0	27.6	17.4	4.1

※資金繰りDIは資金繰りが「楽になった」とする構成比から「厳しくなった(苦しくなった)」とする構成比を差し引いたもの

4. 販売単価DI

	平成21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年 上半期
農業全体	-	▲41.3	▲12.7	4.5	▲11.1	▲40.0	13.1	26.1	24.3	2.1	▲6.9	▲31.4
稲作(北海道)	-	▲84.0	32.9	40.4	▲51.9	▲88.6	10.1	19.9	54.4	▲5.9	▲2.4	▲33.0
稲作(都府県)	-	▲85.8	25.2	43.3	▲58.7	▲88.2	7.0	33.4	36.0	16.9	13.4	▲21.0
畑作	-	▲40.4	▲34.4	▲29.7	▲36.2	▲30.5	▲15.4	▲3.5	▲2.1	▲1.9	▲8.6	▲34.6
露地野菜	-	9.8	▲32.6	▲19.6	17.0	▲33.5	▲10.0	16.5	▲7.8	0.8	▲43.1	▲34.7
施設野菜	-	▲14.3	▲27.3	0.9	▲0.4	▲32.8	▲0.6	26.0	8.7	▲11.6	▲31.2	▲22.7
茶	-	▲36.6	▲43.0	▲27.9	▲62.1	▲64.0	▲59.4	▲1.3	18.1	▲41.1	▲63.5	▲82.9
果樹	-	20.1	▲15.1	1.9	▲1.4	▲25.4	10.9	34.9	28.0	15.0	15.7	▲7.5
施設花き	-	▲37.3	▲52.0	▲27.0	▲21.1	▲47.0	▲15.4	7.3	▲28.6	▲23.3	▲25.3	▲65.6
きのこ	-	▲69.9	▲53.9	▲42.2	1.2	▲22.0	▲6.4	▲18.2	▲11.3	▲39.6	▲46.4	▲5.4
酪農(北海道)	-	▲66.7	▲22.0	37.4	36.0	59.3	85.9	79.3	67.8		33.0	▲27.8
酪農(都府県)	-	▲5.9	▲24.0	▲2.1	51.7	23.0	61.7	50.7	14.4	17.6	34.2	▲32.7
肉用牛	-	▲33.6	▲65.4	▲4.9	59.0	46.4	85.8	76.4	17.1	20.4	▲21.5	▲91.1
養豚	-	11.2	▲22.9	▲71.5	70.1	84.1	26.9	▲15.1	63.6	▲55.0	▲24.5	53.8
採卵鶏	-	38.9	▲11.7	▲48.8	82.3	53.6	74.0	▲12.0	1.7	▲66.7	▲53.2	▲53.5
ブロイラー		▲12.7	3.1	▲47.4	▲22.4	10.4	28.8	▲9.7	37.5	▲11.6	▲28.3	▲4.2

※販売単価DIは生産物の販売価格が「上昇した」とする構成比から「下落した」とする構成比を差し引いたもの

I. 農業の景況について(生産コストDI、雇用状況DI)

- ・生産コストDI(▲32.9)は全業種で引き続きマイナス値となった。
- ・雇用状況DI(▲29.2)はマイナス値が続き、労働力不足の状況を示している。

5. 生産コストDI

	平成21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年 上半期
農業全体	-	▲ 43.6	▲ 48.6	▲ 50.7	▲ 62.9	▲ 66.3	▲ 44.7	▲ 19.1	▲ 25.2	▲ 37.1	▲ 38.8	▲ 32.9
稲作(北海道)	-	▲ 47.8	▲ 53.5	▲ 49.7	▲ 63.0	▲ 69.0	▲ 44.1	▲ 24.2	▲ 18.8	▲ 36.9	▲ 40.4	▲ 44.4
稲作(都府県)	-	▲ 38.6	▲ 40.7	▲ 38.3	▲ 43.6	▲ 53.2	▲ 36.5	▲ 11.5	▲ 11.2	▲ 18.2	▲ 19.3	▲ 30.2
畑作	-	▲ 55.2	▲ 62.3	▲ 55.8	▲ 70.4	▲ 78.2	▲ 63.7	▲ 32.6	▲ 28.4	▲ 38.5	▲ 45.6	▲ 40.3
露地野菜	-	▲ 54.4	▲ 55.3	▲ 46.9	▲ 65.1	▲ 67.5	▲ 56.8	▲ 28.9	▲ 40.0	▲ 46.3	▲ 53.1	▲ 46.4
施設野菜	-	▲ 55.9	▲ 52.4	▲ 52.4	▲ 64.5	▲ 63.4	▲ 41.0	▲ 26.5	▲ 39.9	▲ 49.0	▲ 57.6	▲ 47.5
茶	-	▲ 38.1	▲ 53.1	▲ 48.4	▲ 68.5	▲ 72.5	▲ 30.1	▲ 11.1	▲ 32.2	▲ 46.7	▲ 51.6	▲ 10.5
果樹	-	▲ 46.0	▲ 38.1	▲ 44.8	▲ 55.8	▲ 67.0	▲ 48.4	▲ 31.3	▲ 37.3	▲ 39.0	▲ 48.1	▲ 41.4
施設花き	-	▲ 34.9	▲ 48.9	▲ 53.3	▲ 70.7	▲ 72.8	▲ 33.5	▲ 21.9	▲ 48.6	▲ 53.5	▲ 55.7	▲ 37.4
きのこ	-	▲ 38.6	▲ 43.1	▲ 40.6	▲ 64.0	▲ 74.4	▲ 43.0	▲ 22.4	▲ 28.8	▲ 59.2	▲ 56.6	▲ 42.1
酪農(北海道)	-	▲ 51.1	▲ 59.0	▲ 68.8	▲ 81.9	▲ 80.4	▲ 46.4	▲ 4.9	▲ 35.2	▲ 48.2	▲ 37.1	▲ 26.2
酪農(都府県)	-	▲ 34.0	▲ 53.9	▲ 67.5	▲ 83.5	▲ 83.6	▲ 46.6	▲ 0.7	▲ 32.9	▲ 40.4	▲ 46.6	▲ 23.3
肉用牛	-	▲ 42.3	▲ 38.0	▲ 65.7	▲ 83.1	▲ 81.9	▲ 63.1	▲ 37.3	▲ 41.3	▲ 46.7	▲ 37.4	▲ 20.5
養豚	-	▲ 21.0	▲ 48.7	▲ 65.9	▲ 69.6	▲ 59.8	▲ 17.7	16.9	12.1	▲ 37.0	▲ 24.7	▲ 4.1
採卵鶏	-	▲ 23.5	▲ 31.2	▲ 61.9	▲ 79.9	▲ 78.6	▲ 32.0	11.2	▲ 12.0	▲ 49.6	▲ 46.9	▲ 8.8
ブロイラー	-	▲ 54.5	▲ 42.2	▲ 42.1	▲ 76.1	▲ 59.7	▲ 44.2	▲ 4.8	▲ 16.1	▲ 23.2	▲ 28.0	▲ 12.3

※生産コストDIは生産の費用(コスト)が「下がった」とする構成比から「上がった(コスト増)」とする構成比を差し引いたもの

6. 雇用状況DI

	平成21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年 上半期
農業全体	-	-	-	-	-	-	▲ 26.3	▲ 33.6	▲ 36.8	▲ 34.7	▲ 34.9	▲ 29.2
稲作(北海道)	-	-	-	-	-	-	▲ 26.7	▲ 35.6	▲ 39.0	▲ 41.2	▲ 36.9	▲ 34.8
稲作(都府県)	-	-	-	-	-	-	▲ 18.8	▲ 27.3	▲ 27.8	▲ 27.6	▲ 29.5	▲ 27.3
畑作	-	-	-	-	-	-	▲ 33.6	▲ 40.8	▲ 45.0	▲ 40.9	▲ 42.7	▲ 39.6
露地野菜	-	-	-	-	-	-	▲ 34.9	▲ 41.5	▲ 43.4	▲ 36.7	▲ 38.2	▲ 34.3
施設野菜	-	-	-	-	-	-	▲ 24.1	▲ 30.8	▲ 33.0	▲ 30.9	▲ 30.1	▲ 25.3
茶	-	-	-	-	-	-	▲ 26.6	▲ 30.8	▲ 37.7	▲ 40.7	▲ 39.5	▲ 23.5
果樹	-	-	-	-	-	-	▲ 25.6	▲ 32.0	▲ 36.8	▲ 36.9	▲ 36.0	▲ 26.9
施設花き	-	-	-	-	-	-	▲ 26.8	▲ 31.6	▲ 34.4	▲ 31.8	▲ 29.9	▲ 29.7
きのこ	-	-	-	-	-	-	▲ 26.6	▲ 37.6	▲ 41.2	▲ 42.0	▲ 42.0	▲ 27.6
酪農(北海道)	-	-	-	-	-	-	▲ 40.4	▲ 45.0	▲ 52.5	▲ 44.1	▲ 38.7	▲ 33.5
酪農(都府県)	-	-	-	-	-	-	▲ 25.8	▲ 28.0	▲ 27.6	▲ 26.3	▲ 35.3	▲ 28.4
肉用牛	-	-	-	-	-	-	▲ 24.7	▲ 28.7	▲ 34.3	▲ 32.4	▲ 32.9	▲ 24.0
養豚	-	-	-	-	-	-	▲ 35.6	▲ 44.5	▲ 44.3	▲ 32.7	▲ 29.8	▲ 27.1
採卵鶏	-	-	-	-	-	-	▲ 31.0	▲ 43.2	▲ 47.4	▲ 41.1	▲ 38.9	▲ 29.8
ブロイラー	-	-	-	-	-	-	▲ 15.4	▲ 21.4	▲ 36.4	▲ 25.0	▲ 37.4	▲ 18.0

※雇用状況DIは雇用状況の実績が「過剰である」とする構成比から「不足である」とする構成比を差し引いたもの

I. 農業の景況について(設備投資ありの比率、設備投資額)

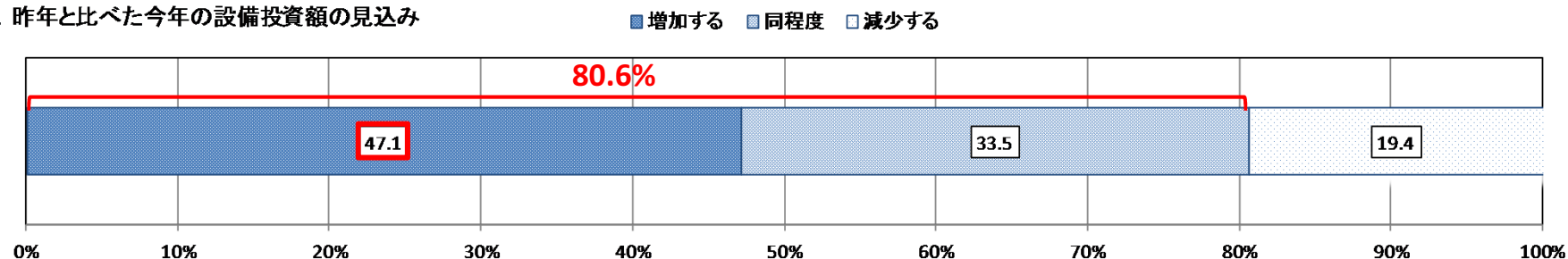
- ・設備投資予定ありの比率(57.3%)は、過去10年間で最高値となった。
- ・設備投資額は、「前年より増加」が47.1%となった。また、「前年と同程度」とした割合と合わせると80.6%となり、総じて積極的な姿勢がうかがえる。

7. 設備投資予定ありの比率(各年7月調査の結果)

	平成22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年
農業全体	-	44.9	49.8	41.2	47.6	47.5	52.9	56.1	57.1	54.9	57.3
稲作(北海道)	-	49.7	53.7	49.1	50.6	43.3	48.5	51.2	58.9	56.3	63.8
稲作(都府県)	-	52.1	60.7	50.6	52.3	46.8	53.9	58.9	62.1	59.7	62.1
畑作	-	48.1	49.0	39.7	46.1	49.4	58.3	60.5	59.9	60.4	67.9
露地野菜	-	42.7	49.6	39.3	51.7	50.0	46.1	56.7	56.5	50.7	54.0
施設野菜	-	47.9	52.9	42.0	43.1	51.1	51.7	52.2	50.7	44.9	51.0
茶	-	29.7	38.8	27.5	31.5	28.2	41.7	47.8	48.4	35.5	36.1
果樹	-	38.7	44.1	30.7	45.1	41.5	42.3	44.1	48.6	46.6	40.9
施設花き	-	30.6	38.9	30.1	46.7	39.1	37.1	48.3	39.2	38.2	50.0
きのこ	-	33.7	37.4	33.0	44.7	57.9	56.3	54.2	46.4	52.9	50.7
酪農(北海道)	-	36.0	36.0	30.9	33.2	42.2	51.9	53.1	54.5	57.0	53.0
酪農(都府県)	-	46.0	47.7	35.8	46.1	48.5	56.6	59.6	59.7	63.5	58.7
肉用牛	-	34.1	42.1	39.7	42.5	50.4	61.7	57.3	52.3	55.6	52.9
養豚	-	52.2	45.9	38.6	60.2	68.7	67.5	68.3	70.2	58.5	64.1
採卵鶏	-	53.0	44.5	38.1	51.5	47.2	64.6	66.0	59.0	48.1	59.3
ブロイラー	-	58.0	47.6	32.9	43.4	45.5	56.1	57.9	69.2	57.5	65.8

※設備投資予定ありの比率は調査実施当年中の設備投資を「実施済み」と「予定している」の合計。

8. 昨年と比べた今年の設備投資額の見込み



I. 農業の景況について(天気図)

業種	令和元年 実績	令和2年 上半期実績	令和2年 通年見通し	業種	令和元年 実績	令和2年 上半期実績	令和2年 通年見通し
農業全体	6.0	▲ 25.9	▲ 42.0	施設花き	▲ 20.2	▲ 64.2	▲ 69.6
稲作(北海道)	26.5	▲ 15.0	▲ 54.7	きのこ	▲ 23.2	▲ 21.1	▲ 10.6
稲作(都府県)	11.4	▲ 15.5	▲ 42.0	酪農(北海道)	30.3	▲ 5.5	▲ 21.7
畑作	31.6	▲ 17.0	▲ 48.9	酪農(都府県)	8.4	▲ 17.7	▲ 16.8
露地野菜	▲ 9.3	▲ 37.3	▲ 45.3	肉用牛	▲ 0.2	▲ 78.1	▲ 78.6
施設野菜	▲ 22.4	▲ 24.8	▲ 26.3	養豚	▲ 4.1	27.3	35.8
茶	▲ 53.1	▲ 84.4	▲ 79.6	採卵鶏	▲ 38.9	▲ 37.7	▲ 49.1
果樹	7.5	▲ 23.5	▲ 51.2	ブロイラー	14.7	▲ 8.3	▲ 30.1

調査様式
 農業経営の業況は
 1:良くなった 2:変わらない 3:悪くなった
 今年(令和2年)の経営見通しは
 1:良くなる 2:変わらない 3:悪くなる

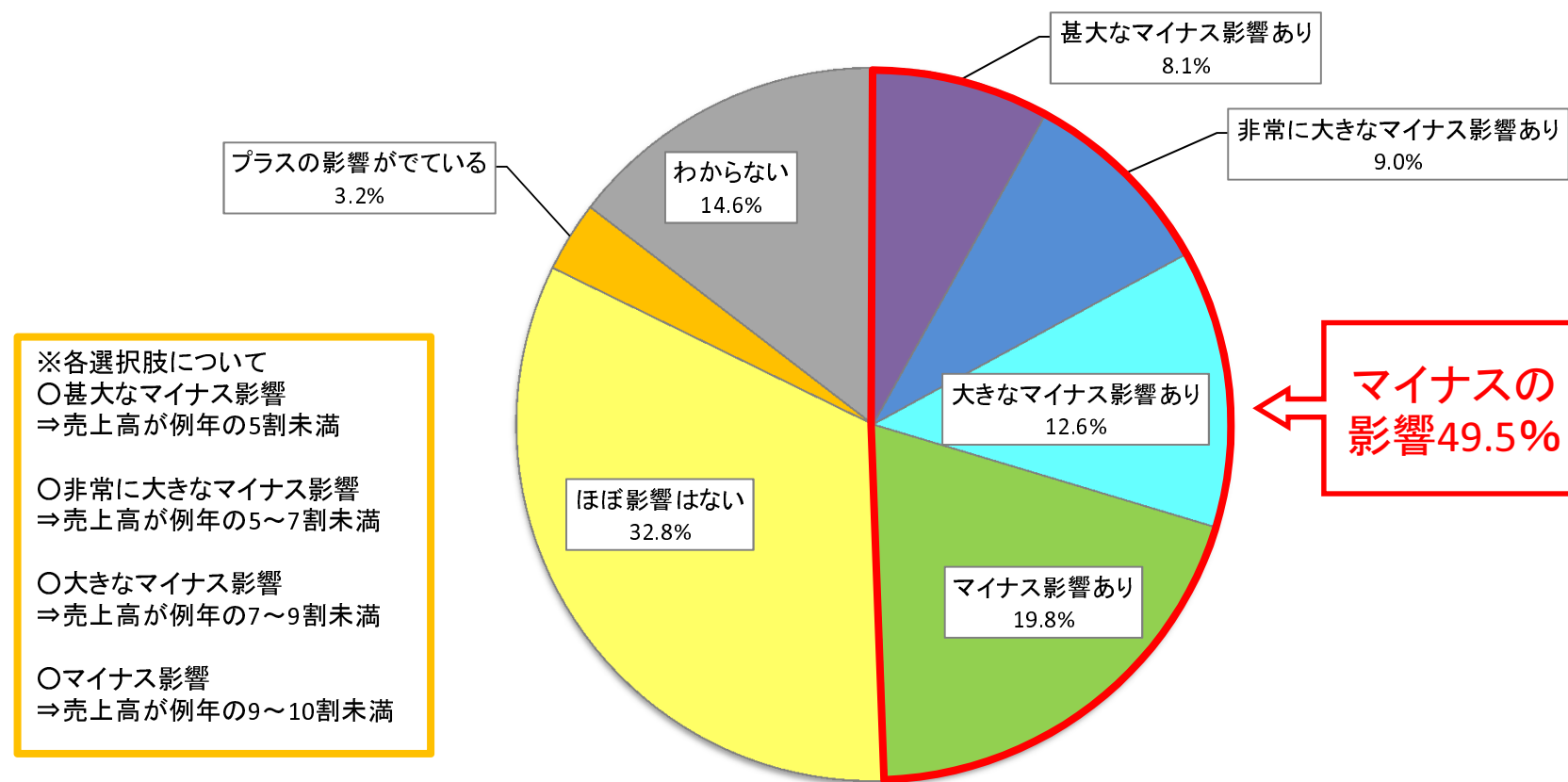
(注1) DI(Diffusion Index = 動向指数)について
 DIは、前年と比較して、「良くなった」の
 構成比から「悪くなった」の構成比を
 差し引いたもの。
 (注2) DI値に2.5以上の差異がある場合は
 上向き又は下向き矢印。2.4以内の場合は
 平行矢印。

(凡例)

Ⅱ.新型コロナウイルス感染症拡大による影響

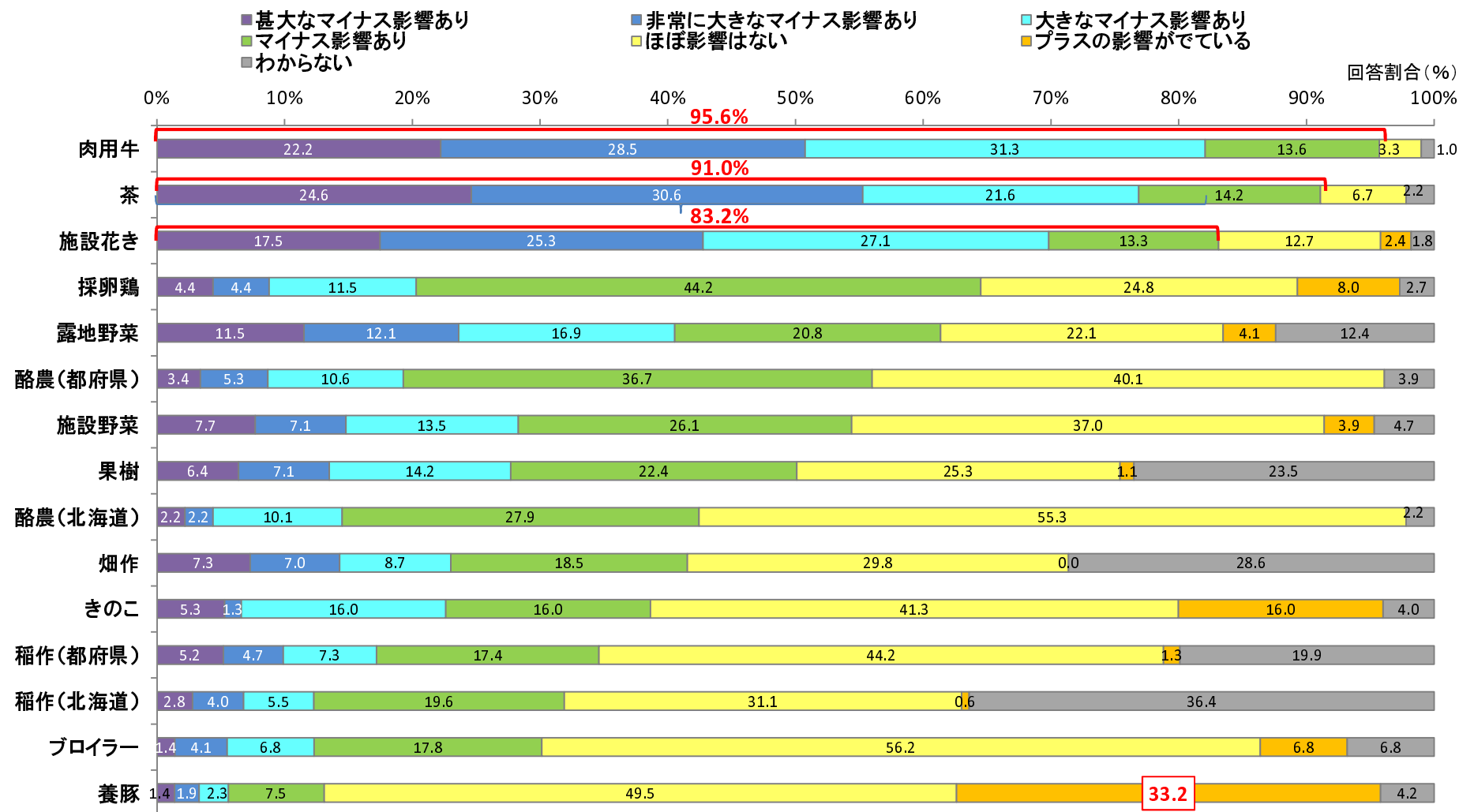
Ⅱ-1. 売上高への影響

- ・売上高にマイナスの影響があるとの回答は49.5%と半数近くとなった。
- ・「ほぼ影響はない」との回答割合は32.8%と約3分の1を占めた。
- ・「プラスの影響がある」とした割合は3.2%と僅少であった。



II-1. 売上高への影響(業種別)

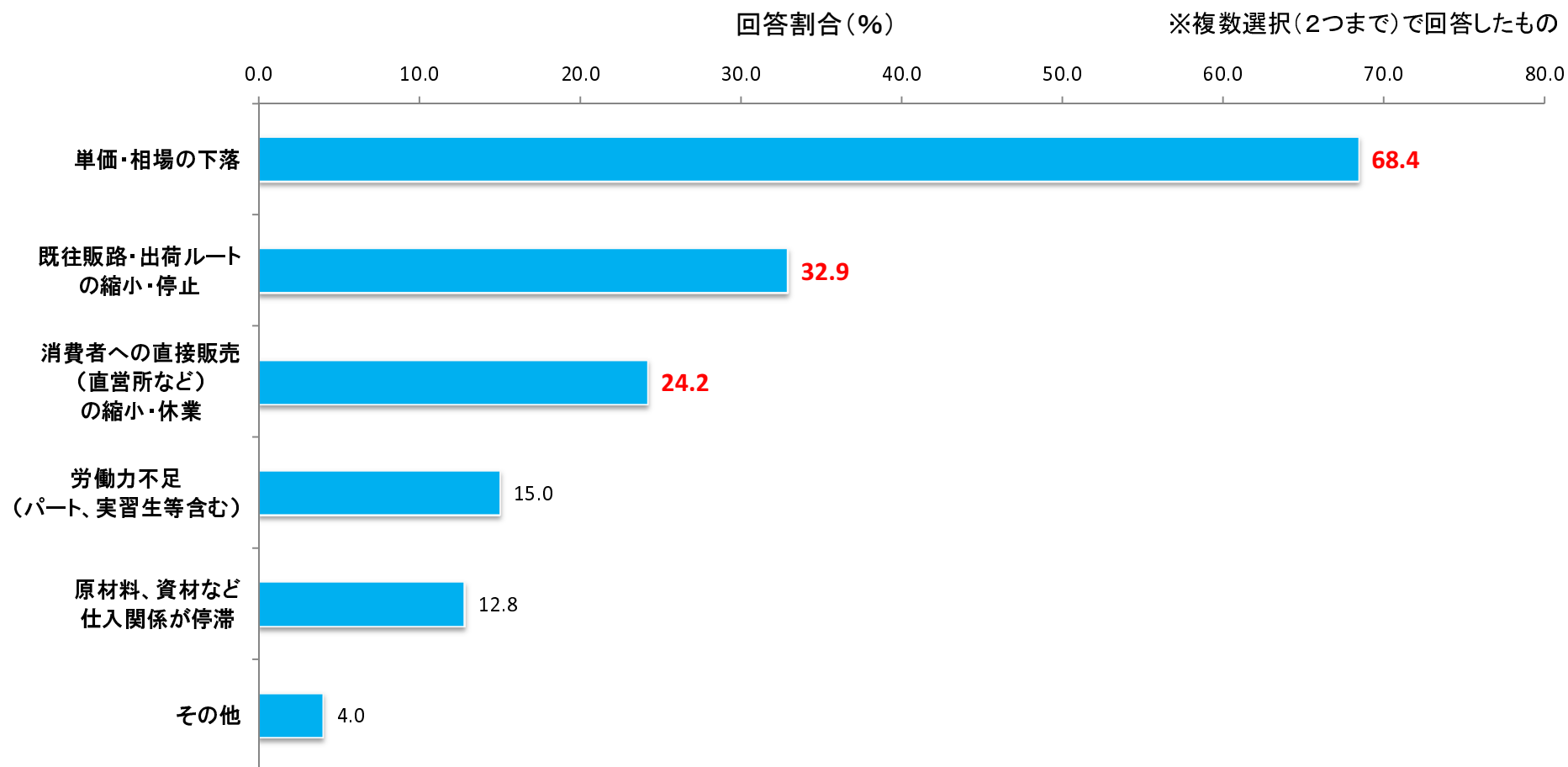
- ・「マイナスの影響がある」と答えた割合は、肉用牛(95.6%)で最も高く、次いで茶(91.0%)、施設花き(83.2%)の順となった。この3業種では、「非常に大きなマイナス影響(売上高が例年の5~7割未満)」以下の割合も40%以上と他業種に比べて高く、売上高に対するマイナス影響の大きいことがうかがえる。
- ・養豚は「プラスの影響がある」とする割合が33.2%と他業種に比べて高くなった。



Ⅱ.新型コロナウイルス感染症拡大による影響

Ⅱ-2. 具体的な影響の内容

・新型コロナウイルス感染症拡大による具体的なマイナス影響は、「単価・相場下落」(68.4%)が最も多く、次いで「既存販路・出荷ルート縮小・停止」(32.9%)、「消費者への直接販売(直営所など)縮小・休業」(24.2%)となった。

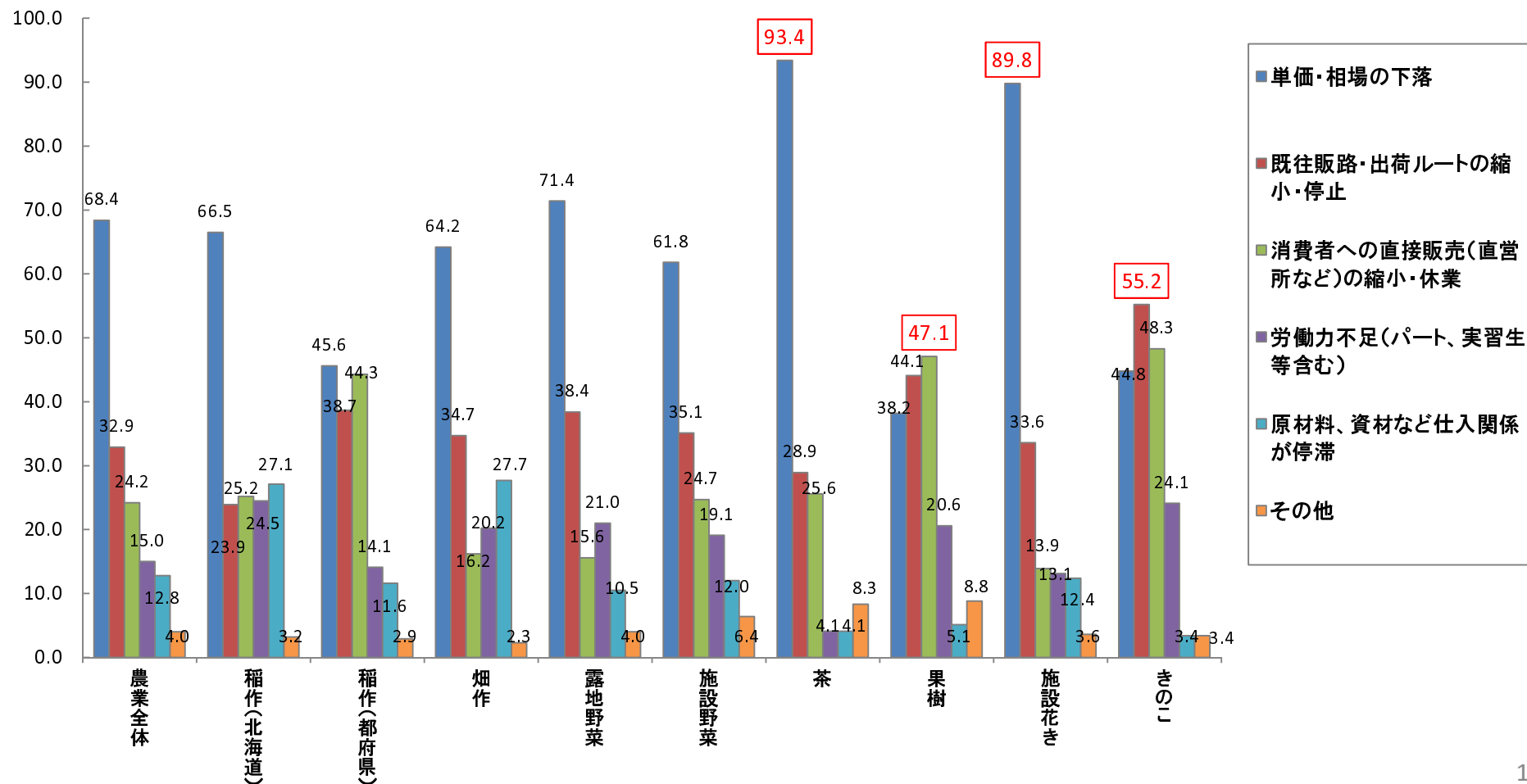


Ⅱ-2. 具体的な影響の内容(業種別・耕種)

- ・業種別(耕種)では、大半の業種で「単価・相場下落」の回答割合が最も高く、特に茶(93.4%)、施設花き(89.8%)では他業種に比べ高い水準となっている。
- ・他方、きのこでは「既往販路・出荷ルート縮小・停止」(55.2%)、果樹では「消費者への直接販売(直営所など)の縮小・休業」(47.1%)の回答割合が最も高くなった。

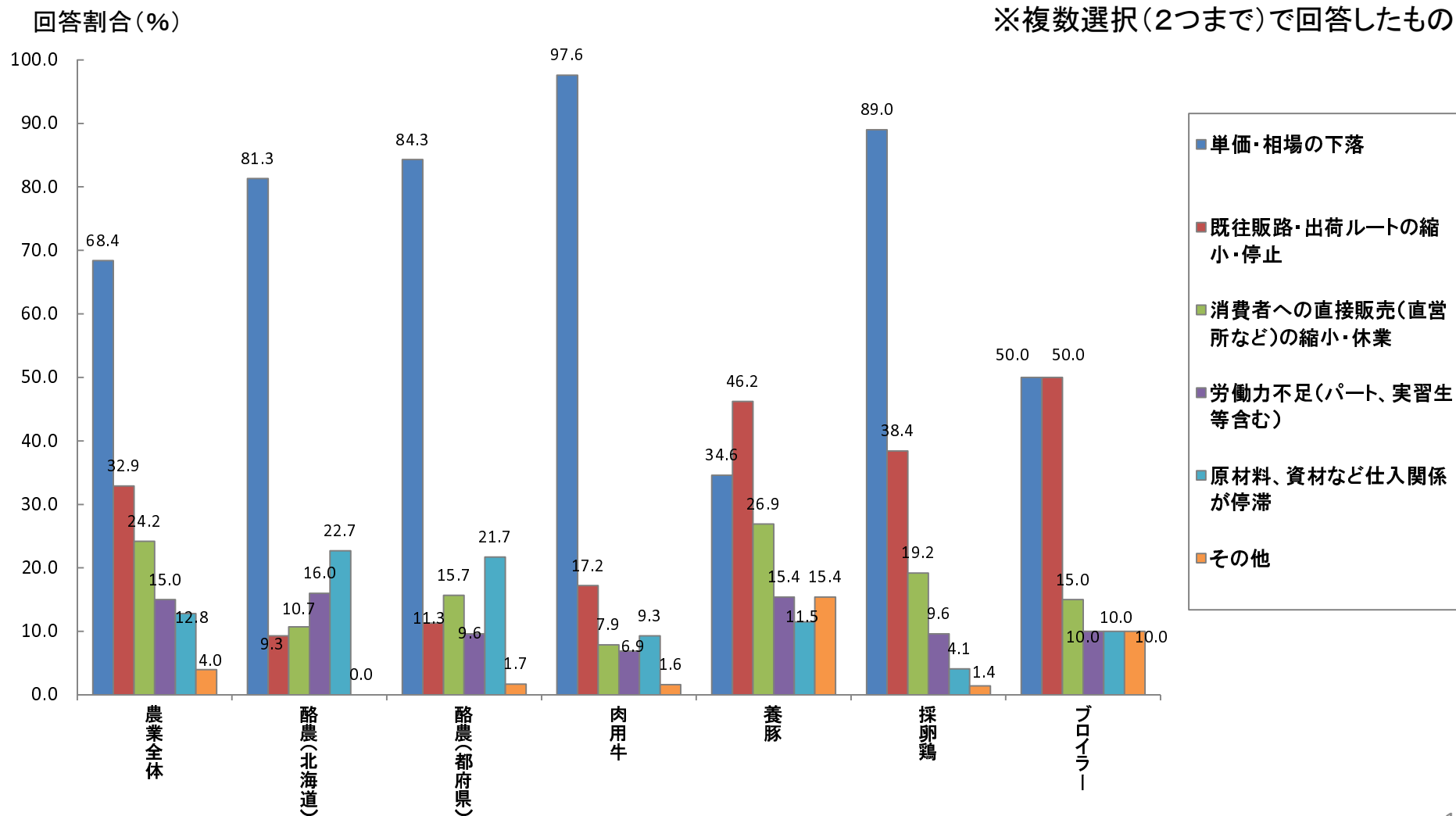
回答割合(%)

※複数選択(2つまで)で回答したもの



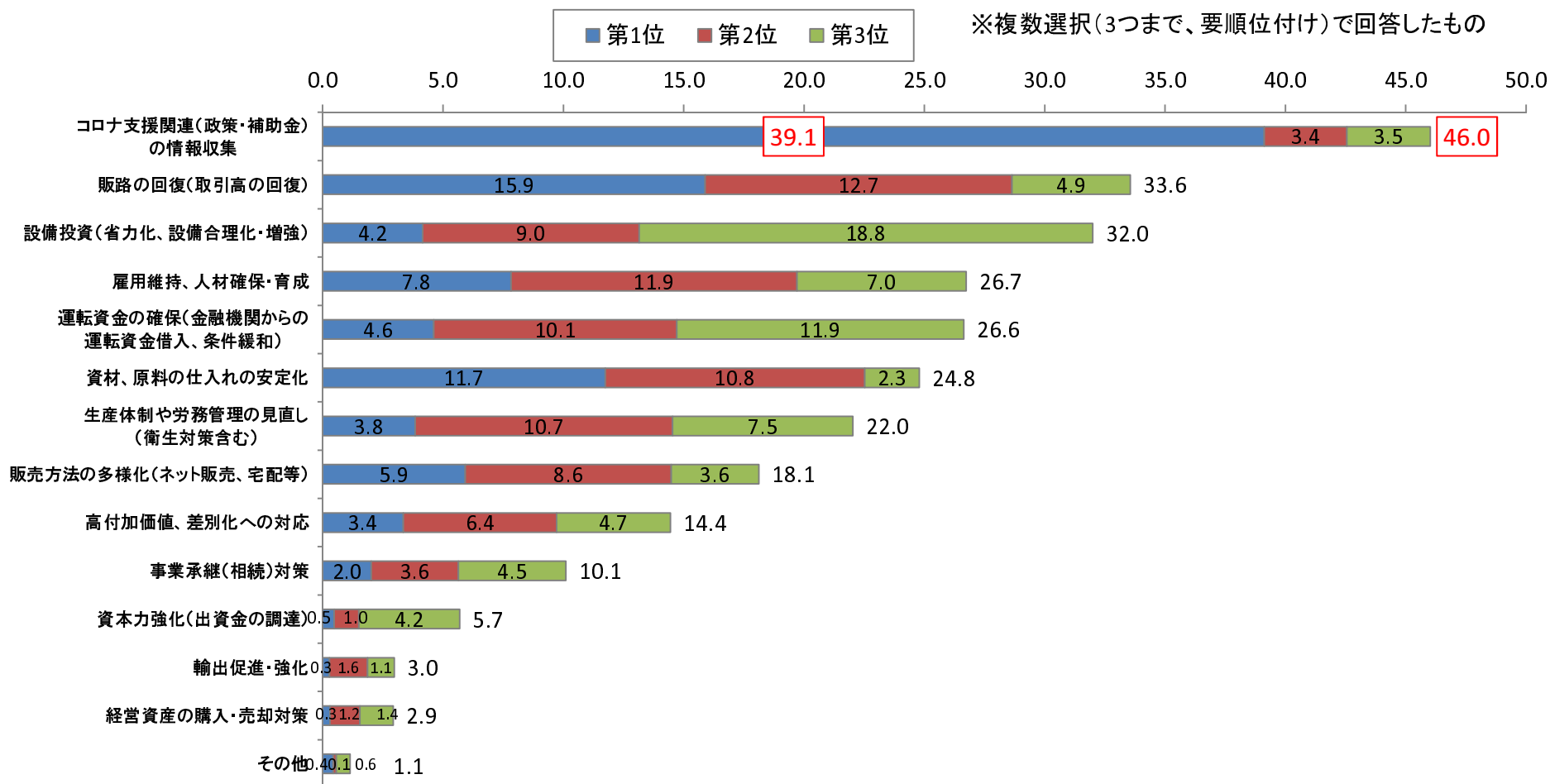
Ⅱ-2. 具体的な影響の内容(業種別・畜産)

- ・業種別(畜産)では、酪農、肉用牛、採卵鶏で「単価・相場下落」の割合が最も高くなった。
- ・養豚、ブロイラーでは「既往販路・出荷ルート縮小・停止」の割合が高くなった。



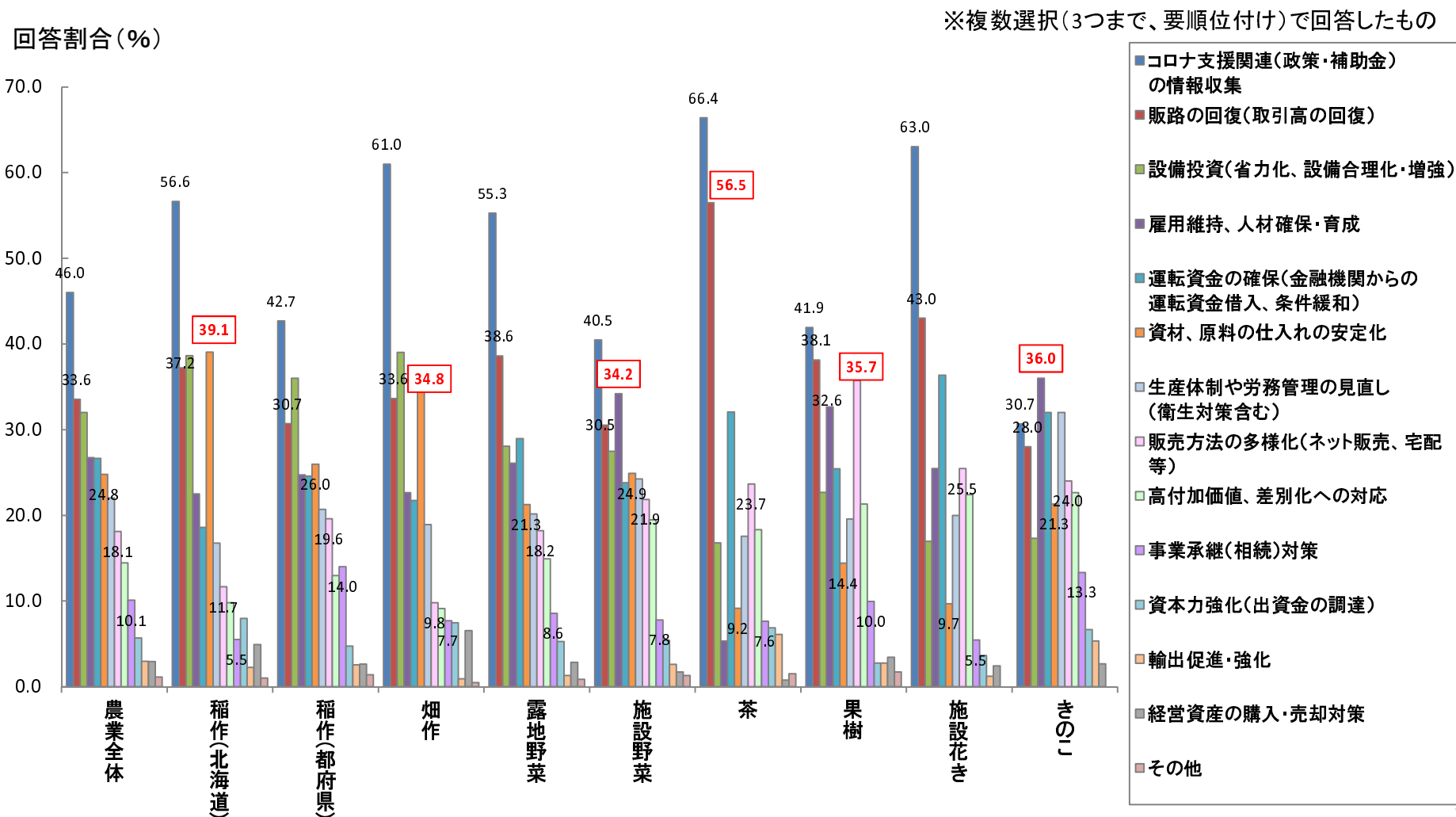
Ⅲ. 新型コロナ下における課題(第1～3位積み上げ)

- ・新型コロナ下における課題は「コロナ支援関連の情報収集」が46.0%と最も高くなった。
- ・また、第1位として選択した課題に絞ると「コロナ支援関連の情報収集」(39.1%)は、他の選択肢と比べて2倍以上の水準となり、重要度の高い課題となっていることがうかがえる。
- ・第2位、第3位の課題では、設備投資や運転資金確保、雇用維持、労務管理などが多く挙げられている。



Ⅲ. 新型コロナ下における課題(業種別・耕種)

- ・業種別(耕種)では、多くの業種で「コロナ支援関連の情報収集」が最多となった。
- ・その他、茶の「販路の回復」(56.5%)、稲作(北海道)及び畑作の「資材、原料の仕入れ安定化」(39.1%、34.8%)、果樹の「販売方法の多様化」(35.7%)、きのこ及び施設野菜の「雇用維持、人材確保・育成」(36.0%、34.2%)が他業種の回答割合に比べて高くなった。



Ⅲ. 新型コロナ下における課題(業種別・畜産)

・業種別(畜産)では、酪農の「資材、原料の仕入れ安定化」(北海道41.4%、都府県34.0%)、肉用牛の「コロナ支援関連の情報収集」(58.8%)、「運転資金の確保」(51.4%)、養豚の「生産体制や労務管理の見直し」(46.3%)、採卵鶏の「販路の回復」(40.4%)、ブロイラーの「設備投資」(42.9%)が他業種と比べて高くなった。

回答割合(%)

※複数選択(3つまで、要順位付け)で回答したもの

